

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100188		
法人名	株式会社 創寿会		
事業所名	グループホームゆりの里		
所在地	宮崎市佐土原町下田島19658-1		
自己評価作成日	平成28年12月12日	評価結果市町村受理日	平成29年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&jigyosyoCd=4590100188-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のあるべき姿を追求する中、誰しもが家での生活を維持したいという思いを全職員がくみ取り、家での時間を過ごすことと同様に、束縛される事なく、優しい時間の流れる第二の家の構築、そして、地域に必要とされ続ける施設であるために、携わる職員の資質の向上に妥協することなく、介護者としてあるべき姿に日々研鑽を積み重ね、『すべては利用者様の為に』を基本とし、当たり前に行い、ノーマライゼーションの理念に邁進している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム主催の納涼祭に100人を超える地域の人々が集まるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。代表者(管理者)は、ホームが利用者の第二の家になるよう支援しており、看取りの実績も多い。また、看取った利用者の命日は利用者と共に弔いをしていく。介護度が高くなった利用者もいるが、全職員で、利用者の心の感動、笑顔を楽しみに日々新しい取組を模索している。代表者(管理者)は職員の資質向上に力を入れ、職員が自己評価する機会や勉強会を充実させ、人材育成に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆりの里理念を基にすべての運営・サービスの指示・指導がなされており、定期的な会議・話し合いにおいて軸がぶれていないか話し、日々のサービスに繋いでいる。	理念に基づいた支援が実践できるよう会議等で話し合っている。管理者は採用時や個人面談の際に理念の想いについて話し、共有できるよう努めている。毎月、理念に基づいた目標を決め、実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回の納涼祭を地域住民との交流の場とし、住民参加型で行うと同時に、散歩等外出にて地域とのつながりを切らないよう努め、地域の交流の場へお連れする等に力を注いでいる。又地域行事へも参加できるよう努めている。	地域に「ゆりの里だより」を配布し、ホームの納涼祭に多くの住民が参加するなど、交流に積極的に取り組んでいる。散歩時に挨拶を交わし、地域の敬老会等の行事に参加している。また、地域の認知症講座の講師を務め、地域の人々との交流にも努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設以来ゆりの里だよりを、毎月地域を含め関係機関へ支援内容・認知症参考資料を掲載し、発信すると共に、各地区へ出向き年1～2回認知症講座を行い、理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に行い、利用者様の状態報告からケアの取り組み等を報告の上、意見交換を積極的に行い常に向上に努めている。又地域の問題点等があれば、協力しあえる体制にて実施している。	地域の代表や利用者家族の代表がメンバーになり、双方向的に積極的な発言がなされ、有意義な会議となっている。地域の状況や問題点が話題になり、協力体制を構築する機会になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に相談・訪問話し合いを行っている。	市の窓口に出向き、ホームの状況や問題点について相談するなど、担当者と顔見知りの関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会にて毎月話し合い、施設においても利用者が、思い通りに行動できるようオープンにし、夜間帯のみ施錠を行っている。	拘束委員会を中心に、利用者が抑圧感を感じない暮らしができるよう、研修会を実施している。全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で話し合われる上、日々身体状態を含め確認し、職員の接し方・言葉遣い等に十分注意を払い、直接現場で注意を払えない際は、カメラモニターで日々の生活状況を確認していると共に、職員のメンタルに十分目をやるよう努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の状態に合わせ常に心掛け・実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に施設長・ケアマネによって十分に話しあう時間がもたれ、しっかりした説明がなされている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のケア報告の際、必ずご意見・要望をお伺いする事になっており、ご家族が来られた際に直接お伺いし、何か出た際は即座に話し合いが持たれ、対策等を報告させて頂くシステムとしている。	毎月家族と話す機会を持ち、利用者の状況を共有して希望や意見を聞いている。運営推進会議の議事録を全利用者家族に配布している。出された意見については早急に対応し、結果について全家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・個人面談時に聴く機会を持ち、何事も共に考え、方向性を決定できるよう努めている。	全体会議や個人面談の時に意見や提案を聞いている。職員が提案しやすい環境づくりに努めており、人事考課に反映している。種々のケアで職員の提案が生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にアンケート・チェック表にて自己評価をさせ、面談時で話し、向上に努めると共に、個々の問題点等を汲み取り、気持ちよく働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に研修に力を入れると同時に、毎月のミーティング時に勉強会を義務付けて、個々のレベルを向上させる課題を与え、ケアはもちろん接遇の基本から力を注いでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	幾つかの定例会に参加し、あらゆる情報交換を行うと共に、勉強会を行うなど他社・施設との交流を積極的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の訴えや要望をお聴きして、不安・要望等、ご希望に添えるよう努め、安心した生活が送れるよう声かけや支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月1回、ご家族に電話連絡を行い、又面会に来られた際にも、ご要望や苦情等を尋ね、ご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネとご家族との初回面談時に、ご利用者様が必要としている支援を見極め、サービス利用に反映できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と接する際は、対等な関係として、言葉遣いに気をつけたり、職員本位とならないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月～3ヶ月ごとに開催している家族会の中で、ご要望等を意見交換し、ご家族と利用者様の理解を深め、利用者様を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	食堂ホールに集まって、レクリエーションを行ったり、料理教室・園芸活動・外出・散歩に出かけている。	地域の敬老会への参加や墓参り、顔なじみのボランティアとの散歩など、家族やボランティアの協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションや関わりが持てるよう、レクリエーションの中で隣どうしになるよう、席の配置を工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族からの相談支援がいつでもできるよう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様自身からの希望や思い等意思疎通が困難な為、日々の介助時に、声かけを行いながら実施している。又ご家族に対しても、日々の様子等を面会時に報告し、ご家族からの意見等を取り入れている事もある	寄り添うケアを大事にしており、ゆったりと一緒に過ごす時間を設けるよう努めている。家族の来訪時には必ず声かけをして、家族から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は基本情報により得ている。利用者様との日々の関わり・会話の中で、以前の生活状況や趣味等を聴きだし、園芸療法やカラオケ・施設内での家事の手伝いを依頼したりと職員間で検討実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のスケジュールに合わせ、その日の健康状態を把握しながら業務中心に行っている。又状態に変化のある利用者様に対しては申し送りにより、定期的にバイタルチェックを行っている。日中の過ごし方は介護度の高い利用者様が多い為、レクリエーションの活用等検討が必要である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のサービス内容や関わった事による利用者様の表情や発語等、記録として残すよう促しているが、まだ不十分である。日常の職員間の会話等でサービスのヒントを得たり、ミーティングで意見を取り上げ計画書に反映させている。	計画作成担当者が、職員からも聞き取りをして毎月モニタリングを行い、それを反映した計画の作成(見直し)をしている。日々の記録の様式を見直しているが、まだ身体状況の変化の記述が多く、介護計画(目標)に沿った記述が少ない。	より介護計画に沿った支援を実践するために、全職員が介護計画を認識し、日々の気づきや表情などを記録して、それを反映した本人本位の介護計画を作成する体制作りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容の実施状況等、現場で一緒に行ったり、観察を行っている。又ケアの評価や変更等、日々の記録やミーティング時の職員の意見(気づき)を聴きながら見直しや作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の意向を得て、自立支援事業所・担当者による個別リハビリ・マッサージ・口腔ケア指導を受けている。又散歩やドライブなどの屋外活動も定期的に行っている。		

宮崎県宮崎市 グループホームゆりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の民生委員・地域包括支援センター職員の参加を促し、運営会議を計画実施し、施設の状況報告を定期的に行っている。施設行事として納涼祭を開催し、地域住民・利用者様やご家族を招待し地域密着に心掛けている。又地域中学生の職場体験等を受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設と提携する病院に、ご家族・利用者様の意向により定期往診(2/月)を含め、健康管理を実施している。又主治医の継続を希望される利用者様については、ご家族様の協力により、定期受診の結果報告等健康・服薬管理を行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。定期的な往診があり、通院も状況に応じ同行している。医師との連携もなされており、適切な医療を受ける体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や状態悪化時はその都度受診に同行し、状況報告を行っている。点滴処置等施設看護師による処置対応が行われ、又直接、医師から施設看護師へ指示・施行となる事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時に日常の状況報告を行っている。状況に変化あるときは主治医への連絡体制や専門医への紹介等の連携を図っている。又入院時にはご家族への連絡・報告後調整を行い、入院の付き添い等連携している。又地域連携室との情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期への利用者様やご家族の思いを十分収集出来るように、話し合いの場を設けている。事業所で行える事を説明しながら方針を共有し、文書化し、地域の関係者とともに連携を取っている。	利用開始時に本人や家族にホームの方針を説明し、話し合いを持った上で意思確認書を得ている。看取りの実績も多く、かかりつけ医や協力医との連携もなされており、看護師を中心に全職員で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の場合は緊急連絡網があり、それに沿い対応している。処置に関しては、看護師より処置板に対応の仕方を記入し、その手順に沿って手当等の実践を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を計画し、利用者様も全員参加の下、実践している。マニュアルを作成しており昼夜、津波を想定した訓練も行っている。	地域住民の協力も得て、定期的に利用者も一緒に訓練を実施している。運営推進会議でも話題にし、地域の代表者と具体的な対策について話し合っている。備蓄もなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対して尊厳の気持ちで接し、声かけを行っている。	利用者の人格を尊重した声かけやケアを実践している。特に排せつ介助の際に気配りをし、尊厳を保つ支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思を尊重し、職員が環境作りに努め、その中で自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に沿って、職員が付き添いをし行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に保つ身だしなみの気配りを行っている。衣類購入はご家族の持参であったり、時には職員が購入したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様によっては、食後のお盆拭き等を手伝って頂いている。昼食時は、懐かしのBGMをかけて、職員が利用者様を囲んで会話をしながら、楽しく食事を食べて頂く様にしている。	介助の必要な利用者が多いが、職員が寄り添い、一人ひとりに必要な介助をさりげなく行いながら職員も一緒に食事をしている。料理教室を行い、おやつと一緒に作り、食を通して楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は楽しみの一つと考え、利用者様のペースで食べて頂いている。自立摂取を基本に介助は必要最低限で行っている。なかなか水分が摂れない利用者様には、飲み物（清涼飲料水・ジュース・ゼリー）を変えたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方には、声かけと見守りをして洗い残しがあるかないかを最後に職員が確認している。毎食後、口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導を行っているが、尿意の訴えがあるたびに、トイレにお連れしている。日中に尿失禁の無い方には日中、布パンツを着用して頂き、トイレにお連れしている。	チェック表を活用して排せつ支援をしている。夜間におむつを使用している利用者も日中は布パンツを着用するなど、一人ひとりに応じ、いつまでもトイレでの排せつができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や座薬も利用するが、きなこ牛乳を飲んでいただいたり、便座にゆっくり座って頂く等、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否があるときは、十分に声かけを行ったり、拒否が非常に強いときは入浴の順番(時間)をずらしたり、中止し、翌日に入ってもらっている。	一人ひとりの希望に合わせて入浴を支援している。利用者の状況で、ストレッチャーやシャワー椅子での入浴が多いが、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもうとうとされている時、疲れた様子の時は、横になって頂いている。リネン類をこまめに交換し、清潔に保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をファイルに綴じて、一覧出来る様にしている。新しい薬が処方された時は、申し送りをし、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日に散歩・ドライブを行っている。ドライブは施設行事として計画して行っている。月1回の料理教室を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は積極的に促すが利用者様の拒否が強いときは無理強いをしない。ボランティアの方に付き添いをお願いする事がある。	散歩が日課になっており、気の進まない利用者も外で日光浴をするなど支援している。散歩のためにボランティアも来ており、なじみのボランティアとの散歩を楽しみにしている利用者もいる。定期的に外出の機会を設け、花見や外での食事を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様がお金を持つことは大事ですが、一人一人の能力に応じて買い物したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様がいつでもご家族に電話を掛けられるのが良いのですが、言葉が出なかったり、発語が出来ない利用者様が多いため、代理で職員が行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール・各部屋に季節毎の花や行事毎等で飾り付けをして季節感と癒し効果を作っています。 春:桜の花飾り、お雛様 夏:七夕飾り、梅雨の景色 秋:紅葉、柿 冬:クリスマス、正月飾り等	室温、湿度、光等に、こまめに配慮している。居間から見える中庭に、季節の花が咲いたプランターを置き、季節感が味わえるよう工夫している。ソファや畳などを随所に配置しており、くつろげるスペースを確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の定位置にいつも座るのですが、時には座る位置を変え他の利用者様の顔を見たりしている。ソファも利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の写真や行事の思い出写真、ご家族の写真を飾っています。好きな動物のぬいぐるみをそばにおいて楽しんで貰っています。音楽も懐かしい歌のCDやラジオも聴いて居心地良く過ごせるよう努力しています。	利用者の思い出の物の持ち込みを依頼して、孫の作品や写真、ぬいぐるみなどを置き、心地よく過ごせる居室にしている。加湿器や濡れタオルで部屋の湿度にも気配りしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴場や居室内のトイレは縦横の手すりを設置しています。洗体も出来るところは手袋を利用し、洗って頂いています。		